

ふるさとに、日本に、 基地はいらない

全国でひろがる米軍再編強化ノ一のたたかい

座

談

会

にし ざと
西里 ひろ子

かも い
鴨居 洋子

かみ 紙
智子

沖縄県宜野湾市在住。新日本婦人の会沖縄県
本部副会長

神奈川県座間市在住。「キャンプ座間周辺市
民連絡会」代表委員、昨年座間市長選挙に立
候補

参議院議員。沖縄北方特別委員会委員

西里 七月三日の朝、沖縄本島中部の住宅街で、酔った米兵が小学生の女子児童にわいせつな行為をして写真を撮るという事件が発生しました。いま沖縄は大きな怒りにつつまれています。

私たち新日本婦人の会も申し入れ書を作つて、沖縄県母親大会実行委員会とともに防衛施設局と沖縄県に要請してきました。申し入れ項目は、被害児童と家族への謝罪と補償、心のケア、事件の根源である米軍基地の全面撤去と日米安保条約の廃棄などです。いつものことですが、防衛施設局の対応は弁解に終始していました。事故が再発しないように米軍にお願いするしかない」と。私たちはもう聞き飽きました。

加害者は嘉手納基地所属の空軍軍曹でしたので、嘉手納基地を抱えている沖縄市、嘉手納町、北谷町がいちはやく議会で抗議決議をあげ、沖縄県議会も全会一致で決議をしました。さまざま女性団体、PTA、教育委員会も抗議の声をあげています。

被害にあつた女子は「殺されるかもしれないと思った」と言つてゐるそうです。日曜日の朝、ごく普通の住宅街で小学生が被害にあつた事件ですから、父母や教育現場にも大きなショックを与えています。九五年の少女の事件から十年、地元新聞も、基地が

なくならないかぎり日常生活をおびやかされる恐怖から抜け出せないと書くなど、もう米軍基地はいらないというのがいまの沖縄の主張になっています。

戦争司令塔がやつてくる

鴨居 座間市にはキャンプ座間という米軍基地があります。相模原市と座間市にまたがる二百三十五万平方メートル、東京ドーム五十個分の広さの基地で、現在も在日米陸軍司令部が置かれていて在日米軍にとっては大事な拠点基地です。

いまアメリカが世界に置いている基地を再編しようとしており、日本にいる米軍や米軍基地をどうするかということが大事な柱になっています。そのなかで、

いまはアメリカ本土にある「米陸軍第一軍団司令部」をキャンプ座間へ移転するという案が出ています。陸

軍第一軍団というのはイラク戦争でファルージャの皆殺し作戦の主力部隊になった組織で、その司令部といふのは格段にランクが高く、「地球規模の戦争司令塔」といえるものです。

こんなものが移転してきたら、キャンプ座間の基地機能がいつそう強化されるし、テロの標的になる不安が高まります。座間は「基地の返還」が市の方針です

から、いま自治体、住民ぐるみの反対運動をひろげているところです。

紙 座間や相模

原では市長もいっしょに反対運動に立ち上がっていますね。以前から基地の問題でいっしょに運動してきたのですか。

自治体ぐるみで反対運動

鴨居 いいえ。座間市では基地被害というときに、厚木基地の戦闘機などの爆音のほうがひどくて、キャンプ座間は静かだし、あまり基地としての存在感を感じなかつたんです。ただ、二〇〇一年の9・11のテロの夜から騒然としてきて、その後はゲート前で米兵が市民に向かって銃口を向けるようになり、そのころから基地がある不安がひろがりました。

昨年の三月に新司令部の移転計画が報道されまし



た。九月に市長選、市議選があつたんですが、当初はそのことはあまり争点になつていなかつたんです。現職の市長も基地にたいしては「適切に対応します」と言つだけで、基地返還のための市長の諮問機関である「基地返還促進委員会」を一度も開いていないなど、積極的ではありませんでした。

そこで「新司令部移転反対、基地撤去」を掲げて私

が市長選挙に立候補しました。市長選では負けてしまいましたが、選挙戦を機に驚くほど市民の世論が高まつてきました。十月の市議会では全会一致で新司令部移転反対の決議があがり、市長と市議会と自治会連合会で「キャンプ座間米陸軍第一軍団司令部等移転に伴う基地強化に反対する座間市連絡協議会」が発足しました。

いまは庁舎や小学校や自治会の掲示板にも「移転反対」のポスターや横断幕が掲げられています。(写真つきの地図をひろげる)

一同 うわー、すごいですね。

鴨居 市の公用車も「移転反対」のステッカーを張つて走っているんですよ。

紙 署名もたくさん集まつたとか。

鴨居 人口十二万九千人ですが、ダブリをのぞいて

過半数近い六万人分の署名が集まっています。駅前で市長や市議たちがずらーっと並んで署名をうつたえたものだから、駅を降りてきた人はびっくりしたそうです。

同じくキャンプ座間をかかえる相模原市でも市をあげての反対運動がおこっていますし、周辺自治体の議会でも反対の決議や意見書があがるなど、大きくひろがっています。

海兵隊に歓楽街まで用意？



紙 北海道で関係自治体を回つて懇談しているのですが、座間では市長も住民とともに反対運動をしている、という話をしているんですよ。

北海道の場合は、米軍と自衛隊の共同使用の基地は多いのですが、沖縄や座間とはちがつて、いつも米軍が駐留しているわけではありません。でも千歳空港に

隣接して大きな演習場があつて、自衛隊と米軍が頻繁に共同訓練をしています。そこではよく事故が起こるんです。

今年も、自衛隊の砲撃訓練が失敗して弾が道道を越えて着弾した事件がありました。たまたま冬場で通行がなかつたけれど、春から秋にかけてはタケノコ採りやキノコ採りなど市民の憩いの場になつてゐるんですね。そういう場所に着弾したのですから、大事件でした。飛行訓練で誤射し、弾が福祉施設の屋根や壁に当たつた事故もありました。

今回の米軍再編の計画では、沖縄の基地機能をどこに移転するかということで全国の米軍や自衛隊の基地の名前があがつては沈んで：とくりかえされています。そのなかで道東にある自衛隊の矢臼別演習場が海兵隊の移転候補地になつてきました。ほかに

も自衛隊東千歳駐屯地の名前があがつています。
東千歳が候補になつたのは、大型軍艦が入港できる苦小牧港が近いことや、千歳空港に隣接して自衛隊の飛行場があるということに加えて、札幌の歓楽街が近いことも理由です。海兵隊用に繁華街も用意してやるつもりなんですね。千歳は戦後すぐ米軍が駐留していた時期があつて、そのときはいまの沖縄と同じようにさまざまな暴力、暴行事件が起きました。今度、海兵隊が北海道にくるとなつたらまた同じ歴史をくりかえすのではないかと不安に思つてゐる市民は少なくあります。

去年の夏に沖縄の米軍普天間基地を飛び立つたヘリコプターが沖縄国際大学の構内に墜落しましたね。私も調査に行きましたが、死傷者がいなかつたのは奇跡的です。米軍基地があるということは、命の危険と隣り合わせなのだとつくづく思いました。

基地なくしてこそ繁栄する

西里 私の家は沖国大に近いものですから、本当にショックな事故でした。フェンスの向こうは戦場だということを思い知らされました。事故直後、米軍はフェンスを越えて大学構内に平然と入つてきて、大学関

西里さん





係者や国会議員や市長まで追い出して事故処理をしました。日本は事故調査もできない。

治外法権状態

です。これが安保条約の実態なのだと実感しました。

私の住む宜野湾市は普天間基地からのヘリの騒音がひどくて庭で草花をいじるのも憂うつなほどです。米兵は土日は休みですが、日本の祝日は関係なく朝から爆音がするので、ヘリが落ちてくる夢にうなされながらヘリの音で目が覚めてしまう。そういう日常です。

新聞の切り抜きをしているのですが、社会面は毎日、米軍関連の事件、事故の記事でいっぱいです。

以前には、沖縄は米軍基地のおかげで経済が潤つているという人もいましたが、いまはむしろ基地をなくしてこそ経済の繁栄もあるという主張が支持されています。実際に返還された基地の跡地を利用して、発展

しているところがたくさんあります。たとえば若者でにぎわう北谷町のハンビータウンなどは、昔の飛行場跡なんです。また那覇の革新市政が基地撤去させた跡地に、新都心がひろがっています。巨大な基地の存在は交通の渋滞をまねき、経済的な損失はとても大きい。宜野湾市は面積の三三%が基地で、市の真ん中にありますから、とても不便で、街の発展の障害です。

騒音被害、暴行事件、墜落事故、経済発展の阻害…。もう沖縄では米軍基地はいらないという世論が大きくなりがっています。

紙 五月の普天間基地包囲行動や、ねばりづよい辺野古での基地建設反対運動…。すばらしいですね。

人間の鎖

西里 五月十五日は沖縄が日本に復帰して三十三年目の記念日でしたが、「普天間基地即時撤去」などを掲げて、普天間基地を人間の鎖で包囲する行動には二万四千人近くが集まり、その後の県民集会には七千人が集まって大きく成功しました。

その普天間基地の代替として、名護市^{なご}の辺野古沖に最新鋭の海上基地を建設する計画は、十年近くにおよぶ住民のたたかいでいきづまっています。建設のため

のボーリング調査を阻止するために、いまも毎日、地元のおじい、おばあや県内外から支援する人たちによつて二十四時間体制で監視がつづけられています。辺野古はエメラルドグリーンの澄みきった海です。ジユゴンのえさとなる藻場やサンゴのある貴重な自然をこわして、戦争に協力する基地はつくらせないと、文字どおり命をはつたたかいがつづけられています。

また、金武町にある米海兵隊基地キャンプハンセン内の都市型戦闘訓練施設で、陸軍特殊部隊のグリーンベレーによる実弾射撃訓練が再開されました。地元の伊芸区民の反対行動は五百日を超えていました。近く、超党派の県民大会も開催される予定です。

県民の長年の基地反対運動によつて、アメリカも日本政府も「沖縄の負担軽減」を口にせざるええなくなつているんですね。でも、沖縄県民の世論は、もう米軍基地の県内らしい回しではだめだ、アメリカ本土に持つて帰れ、です。

耐えられない爆音



鴨居 神奈川県には十六の米軍基地があり、沖縄に次いで多いんですが、厚木基地の爆音被害はとくにすごいんです。過去にたたかわれた騒音訴訟でも「騒音は激甚で、受忍限度を超える被害をもたらしており違法」という判決が出ています。最近は、批判のつよかつたNLP（夜間離着陸訓練）は減っていますが、スイパーホーネットというもつと大きな爆音が出る機種が日常的に飛んでいます。

騒音って、その地域に住んでいない人にはピンとこないかもしれません、こうやって人が集まって話せないんですよ。話している途中に爆音をあげて戦闘機が飛んできて中断される。赤ちゃんは泣き出し、学校でもしおつちゅう授業が中断されます。防音工事をしてもあまり効果はないんですね。

周辺の家には日本政府が防音工事をするのですが、個人の住宅改修に税金を出す施策つてほかにありませんよ。震災のあとも個人補償はしないということで問題になつていて、米軍閥連にだけは税金を使うのが日本政府な

紙さん



んです。

県内の横

須賀港が米

空母（※）

の母港であ

る限り、米

軍の訓練は

なくならな

い。そのう

え米軍の再編計画のなかでは〇八年に横須賀港に原子力空母をもつてこようというのです。そのため、逗子市と横浜市にまたがる広大な自然の「池子の森」にもつと米軍住宅を造ろうとしています。

再編計画が実行されると、騒音被害はもつとひどくなるだろうし、さまざまな基地被害も増えてくるだろうとおもいます。

紙 爆音訴訟をたたかっている方たちが国会に要請に来られましたが、健康被害がとても深刻だとうつたえおられました。難聴や体調不良になる人がとても多い、と。

西里 基地被害に抗議した県議会にたいして、米軍の司令官が「自分たちが基地をつくった周りに住民が住みついたんだ」と言つて、大問題になりました。ともでもない話です。

一九四五年六月に沖縄での地上戦が終わって、生き残った人たちは米軍の収容所に集められました。戦後、自分たちの土地に戻ってきてみたら米軍が基地をつくっていた。自分たちの土地だと言つても追い出され、仕方なく周辺に部落をつくつたんです。

その後も米軍の施政下で、基地に適している平たんで肥よくな土地は銃剣とブルドーザーで取り上げられ、土地を奪われた人たちは坂の急しゅんなところや狭い土地に家を建てて暮らすようになつたんです。

米軍基地の存在は道理がないんです。だから私たちはいくら被害があつてもふるさとを捨てるのではなく、人間らしい暮らしができる町に変えて、子や孫に残してやりたい、そのためにはたたかっているんです。

先制攻撃できる体制を

紙 そうした沖縄をはじめ基地に反対する国民の運動が、アメリカの世界戦略を思うようには進めさせていないんですね。

米軍に土地を奪われ

そもそも今回の米軍再編ということ 자체、「ソ連の脅威」を口実にできなくなつたアメリカが、米軍基地撤去をもとめる国際的な世論の高まりのなかで、基地

態勢を見直さざるをえなくなつたための計画なんですね。同時に、アメリカ自身が緊縮財政を強いられて、お金のかかる海外の基地を維持しづらくなつた。

一方で、世界で唯一の軍事超大国として世界を思うようにしたいという野望はますますつよくもつていて、「ソ連の脅威」に代わる新たな口実として「テロとのたたかい」をもちだして、「世界では今後どういうことが起こるか分からぬ」、だからイラク戦争のように、テロを口実にした先制攻撃の戦争体制が必要だという理屈です。

世界各国の米軍基地は撤退したり大幅に縮小したりという動きになっています。アジアではフィリピンではすでに米軍基地は完全に撤去され、東アジアで残るのは韓国と日本ですが、韓国も一万二千人を削減します。ヨーロッパでもドイツは約四万人の削減です。

西里 アメリカの軍政下時代、アメリカは沖縄を「キーストーン」と称していましたが、戦略的に非常に重要な島だという位置づけ、現在も一貫して変わつていませんね。

紙 一方では、日本でも米軍による被害が相次いで、基地撤去の運動がひろがるなかで、なんとか批判を押しとどめるために、米軍も「日本国民との摩擦の解消」をうたっています。

西里 米軍はそれといっしょに必ず「攻撃を抑止する能力をたかめる」という。軍事的な「抑止力」は基地強化でしか維持できないわけですから、「抑止力の維持」は、「負担の軽減」や「摩擦の解消」とは両立しないんです。

るからです。こんな国はほかにありませんから、アメリカは手放したくない。

鴨居 私は五月にニューヨークでのNPT（核不拡散条約）の再検討会議に参加しました。いつもは日本が中心の地図を見ていますが、あちらではアメリカが中心の世界地図です。すると、アメリカとヨーロッパは近いけれどアジアはとても遠いことに気づきます。アメリカの世界戦略にとって日本の位置は大事なのだ

そうですね。日本の負担が大変だから軽減しようというわけではなく、アメリカの軍事力を維持するためにはどううまくやるかという話ですか。

大野防衛庁長官は、このふたつを両立させるカギは自衛隊と米軍の共同、基地の共同使用だといっています。自衛隊の基地をいつでも米軍に使わせるということですから、日本全土が米軍の基地になっていく、危険がますます高まるだけです。

自衛隊との共同した動きも

西里 米軍再編計画が進む一方で、自衛隊の動きがめざましくなっていることが非常に不安です。中学生の職業体験で自衛隊に行く学校もでてきてるんですね。

その点で下地島(しもじしま)のたたかいを紹介したいです。下地島は宮古島の西にある、青い海とサトウキビ畑の島ですが、民間の訓練飛行場があります。これは軍事的に使われないという取り決めがありましたが、辺野古の海上基地建設がいきづまるもとで、自衛隊が利用す



る計画が浮上したのです。町議会の一部も自衛隊誘致に賛成し、誘致決議まであげました。ところが、隣の宮古島の住民が下地島の空港軍事利用反対の集会を開き、下地島にも行って自衛隊誘致派にその危険性をうつたえました。下地島の反対派も町民集会を開き、急速に反対の声をひろげ、結局、誘致決議が撤回されるという事態になりました。その間数日、急転直下でした。

私たちも自衛隊の共同した動きに注目する必要があると感じています。

紙 国会では、自衛隊が海外へ行くことを本業にするという自衛隊法の改正がねらわれています。

日本にある米軍基地の強化、そして自衛隊の増強。これは憲法九条の改悪の動きと一体となつて進められています。“戦争ができる国づくり”への重大な一步です。これをなんとしても阻止しないと、日本は危険な方向へ明らかに舵をきることになりますね。ですから、たんに基地のある町だけの問題ではないんです。

安保条約をなくすしかない

西里 基地を維持する日米両政府の言い分は、いつも「安保条約にもとづいてやっている」です。沖縄県民は長い間のたたかいで、ほんとうに基地被害をなくすためには、安保条約をなくすしかないということをはつきりとつかんだと思います。もちろん安保に反対しない人とも共闘していかなければなりませんが。

九条が変えられ、沖縄がアメリカの戦争の拠点になつたら、また沖縄が戦争でひどい目にあうのではないから、戦争を体験したおじいやおばあは危機感をもつて、います。

いまの沖縄の基地撤去のたたかいも主権国家をとりもどし平和な日本をつくる問題として全国にひろげていきたいですね。

世界の流れは、軍事同盟をなくす方向です。とくにアジアでは東南アジア諸国連合を中心とした東南アジア友好協力条約（TAC）で仮想敵をもたない平和の共同体づくりをひろげていたり、欧州（EU）でも「国連憲章の諸原則の尊重」をうたうなど、軍事力でいうことをきかせるのではなく、国連憲章にもとづく平和的な秩序をつくる方向に大きく動いています。

侵略戦争をおこなった日本は、真っ先に軍事同盟をやめ、それこそアジアの一員としてこうした平和と友

好的の流れに合流する方向にいかないといけないのだけど、残念ながらなつていません。

西里 宜野湾市では二年前に革新の伊波市長を誕生させました。伊波さんは五年以内の普天間基地の閉鎖を前面に掲げて当選しましたが、五月十五日の普天間基地包囲の成功をはじめとする運動の盛り上がりを見ても、それぞれの自治体で選挙で勝利する意味は大きいと思います。

沖国大のヘリ墜落事故でも、市役所ロビーで事故直後の写真パネルの展示をするなど、市全体が平和のための発信ができるようになつたことを実感します。

鴨居 座間の市長も伊波市長にお会いしていますが、基地反対運動は市民ぐるみでやらなきやいけない、とアドバイスされたそうです。座間でもさらに市民に知らせて、とりくみをひろげていきたいですね。

西里 ヘリの墜落が沖国大だつたこともあり、学生が中心になつて焼けた壁を残す運動にとりくんでいます。私たちがおとなたちから伝えられたように、いま若い人に平和の願いを伝えていくためにがんばっています。

紙 私も国会内外で、多くの国民に知らせ、運動の先頭に立つています。ごいっしょにがんばりましょう。